

研究

ニューギニアの産業交通の概要

——ラバウルの全貌——

H T 生

戰略的重要のニューギニアの位置と面積

千九百四十四年を迎へて戦局は愈々酷烈なる様相を呈するは彼我共に豫期するところである、我れに元より不動の備へあり、彼も亦本年を以て決戦の年と呼稱して戦局挽回に大奮なる現狀である。顧みるに昨夏以來大東亞戰爭の戰場はソロモン、ニューギニアを中心とする所謂南太平洋戦線、アリューシャン列島を中心とする北太平洋戦線、印緬境戦線、支那大陸戦線の四大部にすることが出来るがこの内最も主要なるものは南太平洋戦線である。孫子の兵法にも敵を知り己れを知るは勝つ要諦なりとの言葉があるが如く、敵の軍事評論家の日米戦論は過去に於いても、現在に於いても多數出版されて居るが、ポールドウインの所論たる日本心臓部攻撃論、及びクラックホーン等の唱へる大東亞共榮圈中斷論、又は從來から論ぜられて居る艦隊決戦論等であ

る。其の内クラックホーンの唱へる共榮圈南北中斷論は、彼のマッカサーのニューギニア進攻の代辯である彼は、陸軍系だけあつて陸軍力を以て制勝を夢みて居る。ニューギニアを西進して本流は比島のミンダナオを攻略し、亞流はチモールに出て茲に空海の根據地を築き、多數の潜水艦と爆撃機を用意すれば、其の爆撃圈内にはボルネオ其他我が戦力資材の給源地が含まれて居るから、經濟戰資源戰に於いても日本の南方占據の勞作は不効用に終ると云ふのである。

偕て、この戰略的にも最も重要なるニューギニアは如何なる所であるか、先づ地圖を俯瞰すれば其の位置は世界第二の大島ニューギニア本土の北東部と、ビスマーク群島及びソロモン群島中の北部諸島を包含して居る。而して本土ニューギニアは西は從來は關領ニューギニアと境界を接し、南は元の英領バプアと中央山塊を二分して背接し、其他にビスマーク群島系の諸島と、ソロモン群島系の諸島等合計數百を

算する幾多の島嶼から成立つて、實に廣袤東西千餘哩南北六百哩に蜿蜒として、その地球上占める位置は赤道以南南緯八度、東經百四十一度から百五十九度餘に至る海域に幅嶮する大島嶼群である。而して其の面積は二十四萬二千平方料と云ふから、丁度我が日本の本洲と千島とを合した位である。

ニューギニアの歴史と人口

全體このニューギニアは今から凡そ四百三十餘年以前、即ち西曆千五百二十二年に西班牙人であつたアルバロ・デ・サアペトラが、メキシコからモルツカ諸島に赴かんとする途中に於いて、海上遙かに此の島を遠望し、其後千五百二十六年に至つてやはり西班牙人であるメネセスなるものが再びこの島を發見し、更に千五百四十五年にニューゴ・デ・レテスが始めてニューギニアに上陸して西班牙の國旗を揚げ、茲にニューギニア領有を時の西班牙政府に宣言せしめたのであつた。

然るに其後幾年も經ずして此の地は英獨蘭諸國の角逐の地となり、遂に千八百九十五年に至つて英獨兩國間に於いて折衝の結果、漸く境界線の確定を爲し、更に千九百年獨蘭間にも同様境界線の確定を見たのであるが、曩の歐洲大戰に於いて獨逸は敗戦の結果聯合國によつて北東部ニューギニアの領有地は剝奪され、濠洲委任統治領ニューギニアとなつたのである。ニューギニアの人口は千九百三十七年現在の統計に依ると、本邦人は四十名にして土人は七十二萬六百餘名、英人餘三千三百餘名、支那人千五百餘名、和蘭人百五十餘名、獨逸四百人

六十餘名、米國人百五十餘名、即ち合計七十二萬六千三百餘名に過ぎざる極めて少なく、其の人口の密度は一平方料に於いて二名と云ふ驚くべき稀薄の狀況である。而して政府の統治に服さず密林の奥深く隠れて住む土人は無慮約二十萬を算し、又土人の内では未だ通貨の價値を知らぬものは頗る多く、従つて彼等には勞働等に依つて金錢を得る執着などは全然無いやうである。併し乍ら段々これを自覺して現在では契約勞働者として勞働に従事して居るものは、全體を通じて約八%位に達するとのことである。

誤れる英國の植民政策と政治組織

續つて政治の概要を見ると、彼の第一次歐洲大戰の結果獨逸はニューギニアの領土權を拋棄して、千九百二十年濠洲聯邦政府が國際聯盟から統治委任を受けると、千九百二十一年五月九日に濠洲政府は首都ラバウルに於て軍事占領は本日を以て終りとなし、同時に本日を以て總督は千九百二十年のパプア條約令により最初の法令を實施す……と宣言してこの日から民政統治に移つたのであるが、その間濠洲聯邦政府はパプア條令を議會に通過せしめて、總督にこの委任統治の大權を附與さるゝことになり、條令中の主たるものは從來の獨逸法規を廢止して奥地開發物々交換、狩獵漁撈については土人の權利特權習慣を保護する規定を設け、裁判所を設立して土人に對しては火器其他武器、酒類、阿片等の供給を禁止の規定を作つたのである。其後修正されたニューギニア條令に依ると、行政會議ではニューギニア行政長官の顯

間及び補佐の機關として濠洲總督の任命する九名の議員と、濠洲政府に依る當領土の立法機關たる立法議會は、行政長官及び八名の官吏議員と七名の民間議員から成つて居たのである。中央政廳は行政長官の下に長官官房、財務局、土人局、衛生局、土木局、税關船舶局、鑛業局、測量林野局、農務局の九局あつて、行政長官は濠洲聯邦總督から任免せらるやうになつて居たのである。もと／＼英國のニューギニアに對する植民政策は、英國が其の何れの植民地に於てもモットとして居ると同様に、先づ鐵道、道路、港灣、衛生を重視して、産業開發については獨逸領時代をそのままに繼承したのみである。而して最も重大なる誤謬はその政治機構の缺陷にある。例へばニューギニアの統治を同島に關して何等の認識も無い盲目なるカンベラの役人に支配させ、

同島の意見を代表するラバウル政廳すら、カンベラ當局の許可を得ざれば何一つ決定出来ない有様である。現にニューギニアは無限の沃土でありながら、政廳が農業開發策を講じないために、コブラの如きは過去二十六年に亙つて不振狀況にあり、農業産業等は敢て顧みなかつたことに依るも明かである。力を注いだ金鑛業でも政廳は小金鑛業者の進展には其の途を與へずして、大會社のみを掌握せしめる方針を取つたために振興は遲々たるものがあつたのである。産金から得たる收入はニューギニアの公共事業に使用することになつて居るが、政廳は殆んど全部を金鑛のために波止場、道路、造船等の費用に充當して年收十萬磅の内、農業開發資金に投ぜらるゝものは皆無たる有様であつた。又金鑛其他の勞務に約四萬の勞働者が居る現狀であつたが、土民

勞働者の生活向上には、政廳は全く我れ關せずの態度を取つて居たのである。全く英國の植民政策の結果ニューギニアは農業に於ては南洋諸島中屈指の適農地であり、林業では全土を蔽ふ鬱蒼たる叢林は無窮に續いて居るにも拘らず暗黒の大陸であつたのである。

ニューギニアの鑛業林業について

元來ニューギニアは既往から鑛物の寶庫と言はれて居つたが、事實鑛産物は輸出額中の第一位を占めて居る。併し乍ら未だ發見せられない鑛脈は相當莫大に上ることを豫測せられて居るが、金は千九百二十一年五月から同三十七年六月までに至る十六年間に、輸出せられたる總量は百五十六萬八千五百六十二オンス、其の價格は八百九十九億四千濠洲磅と云ふ驚くべき額に達して居る。金以外の鑛産資源に付ても相當豊富とされて居るが、既に埋藏箇所の判明したのみで何等着手して居ないところのみにても、白金はニューブリテン島北東部ワイド灣、マダン及びセピック河流域に發見せられ、又銅はナカナイ地方に發見せられて有望視されて居る。錫はガセル半島に發見され、硫黃は火山が澤山ある關係上ラバウル附近マチユビ港畔の活火山等に豊富である。更に鐵鑛は千九百二十年四月にニューブリテン島北岸ランガレル地方に大量あることが發見されて、既に我國からも専門技師が調査に行つたことがある位である。其他滿掩、鉛、燐鑛石、雲母粘土等も產出又は發見されてゐるが、石油は大規模なる調査隊の調査に依るも未だ發見せられず、又石炭は熱量四千カロリー以上を有する良質の褐炭

を埋藏し、又産して居る状態である。然し金鐘は現在は資源の大宗であると共にこの地の輸出の王座である。林業は四ヶ所の製材所があつて有用材はクリンキイ松、南洋杉等であるが、何れも森林中の雜木と混生散在して居るがために伐採に莫大の費用を要するのである。ユーカリ樹の硬木はニユプリテン唯一の特産物と共に、ニユギニアの重要資源である。尙ほ叢林中にはマングローブ、藤、白檀、サゴ、ゴム、ダマール其他の樹脂が繁茂して居るが、道路設備なく運搬の至極困難と經費のために發達せず、故に林業の商業的開拓は道路の開設と相俟つて今後俟つより方法ないと云つて可なりである。

農業と牧畜の進歩

農業については六千萬エーカーと推定さるゝ廣大肥沃の未開地を擁して、今尙農業的開發に着手しない状態にある。濠洲統治政府は近年に於いて農事試験所並に實驗農場の施設をなして、農産物増進改良に乘出したが、モロベ州の數ヶ所には土人苦力の食糧自給自足の必要から農事試験所を設置し、又マールカム河上流六十哩のサンガン農事試験場には落花生と棉花の栽培に成功し、同州の金鐘地帯ワウの試験場ではアラビア珈琲の栽培に適することを發見して大規模の栽培をなして居るが、實驗農場へはラバウルから北方海岸に沿つて美事なる道路を以て連絡せられて居る。このラバウルからケラバットに至る道の海岸沿ひの道路の兩側と、海岸から陸側に寄つた五百米乃至千米位の所に山の麓まで規則正しく植付られた一面の椰子園がある。又ココ椰子

は殆んど全土から産出するが、主たる市場は濠洲、北米合衆國、英皇國、メキシコ及び歐洲諸國である。珈琲はこの土地に於いては其の栽培に適して居るが、其の必要條件である千米乃至五百米の高地には未だ道路が開設して居らないために、現在では道路の通ずる山地部落のみに栽培して居る有様である。併し乍らニユギニア本土及びビスマーク群島が最適地とされて居る。現在一エーカー當り約六百封度の收穫が出来るが品種はアラビア種である。又カカオはニユプリテン島の北岸附近、及び北方離島のザツク群島のやうな味味肥沃の火山質地方に限つて栽培されて居るが濠洲が主要市場であり、その輸出額は千九百三十五年、同六年に於ける輸出量は三千八百餘磅となつてゐる。更にカボックはこのニユギニアに於いては、近年に至つて栽培に適するやうに實驗の結果明かになつたが未だ産出は微々たるもので、却つて千九百三十六年度には蘭領の印度から一千万封度の輸入を仰いだ程である。千九百三十七年のニユギニアのカボック栽培面積は二百三十八ヘクタールと云はれてゐるからたいしたものではないのである。油椰子は北東ニユギニア及びビスマーク群島に栽培に適する廣大なる面積があり、近來スマトラに於いて主要栽培となるに及んで同島と氣候を同じうするこの地では頗る有望視されて居る。米穀はこのニユギニアに於いては未だ試作の域を脱せず、嘗てホリーゴースト教會の手に依つて試作されたが、其の成績は良好にあらざして云はば今後の研究に俟より方法はないのである。謬誤はフィカス・パラ種を栽培してゐるが、これもたいしたものではなく、砂糖はニユギニア本土

並にビスマーク群島には甘蔗栽培の適地は豊富であるが、現在ニューギニア本土の甘蔗は全部野生であり、千九百二十八年米國の農務局の調査に依ると、其の種類が百七十六種もあるとの事である。又タピオカは熱帯根莖植物中の最も重要なものであるが、土人は常食となしてゐる有様であるが、このタピオカ粉は濠洲に多少輸出されてゐる。煙草に至つては全土栽培してゐるが、嘗て歐洲人に依る優良煙草の栽培はニューギニア本土のアストロラベ灣及びビスマーク群島で行つたが、經驗ある勞働者のないために結局失敗に終つたとのことである。其他の農作物は棉花、陸稻、シサル麻、マニラ麻、肉豆蔻、玉蜀黍等の栽培にも適して居ると云はれてゐるが、從來はこれ等の開發は顧みられなかつた状態である。要するにニューギニアの農業開發の進展には土人の勞働力を將來益々潤澤豊富にすると共に、其の指導宜しきを得て土人の勞働力を十分發揮せしむるにあると思はれるのである。

ニューギニアの貿易の概況

更に從來濠洲委任領であつたニューギニアの貿易状況を見ると、の貿易尻は輸出超過を示して居る。而して千九百三十六年乃至三十七年度のその輸出貨資中の主なるものを挙げると、金は三百二萬六千六百にて王座を占め、更にコブの百二十三萬千磅となり、其他は非常に落ちて乾燥椰子果の八萬六千九百餘磅、其他コブラ屑、ガカオ、珈琲、落花生、屑鐵、金鑛石、アイボリナツト、木材、貝類、海產物、其他にて輸出額三百四十一萬九千餘磅である。これに依てもニューギニア

は未だ開發せられずと雖も豊富なる資源を持つて居ることは判明するが、他面全人口五十五萬の内五千餘の外來人を除く五十四萬餘は土人であるからその生活水準の低率にも基因するのである。而してこれ等の出超は金及び金鑛石以外は殆んど農産資源に依つて居るが、苟も尙ほニューギニアの農産資源は十分に開發せられず、未だ廣域なる處女地が未開發のまま到る所放置されて居る現状に鑑み、今後放置區域が開發耕作されるに至ればニューギニアの農産物は東印度に於ける農業國の首位を占めるジャワを凌駕することも、或るは不可能でないかと思はるゝ程この地は前途洋々たるものがある。而して從來は右の輸出品中コブラは濠洲、デンマーク、歐洲諸港、獨逸、日本、メキシコ、蘭領印度、英本國、米國等に貝類は殆んど日本に輸出して居たのである。ニューギニアから我國に輸出額は千九百三十三年同四年には七千八百八十三濠洲磅、同三十四年乃至三十五年には五千八百三十九磅、同三十五年乃至三十六年には一萬二千三百三十五磅、同三十六年乃至三十七年には一萬二千七百と云ふ統計が示して居る。更に輸入の方を見ると千九百三十六年乃至三十七年の統計に依れば、金屬機械器具の四十三萬千餘磅を筆頭に、植物性食糧の十八萬六千餘磅、動物性食糧の十四萬二千餘磅、織物の六萬二千磅、煙草の五萬五千餘磅、油脂肪類の五萬六千餘磅、酒類の五萬磅、糸、ファイバー、未製品類の四萬七千餘磅、藥品、化學製品、肥料類の四萬四千餘磅、衣服の四萬二千餘磅、雜貨の三萬八千磅、木材及其製品の二萬八千磅、紙文具等の二萬二千磅、其他光學、科學學用品、陶磁器、ガラス類、塗料類、寶石、

小間物類、皮革、其製品等に於いて合計百三十一萬千餘磅となつて居る。而して其の仕入先は濠洲の五十三萬九千餘磅を第一位として米國の二十一萬五千餘磅、英本國の十四萬八千餘磅、日本の七萬三千餘磅を主なるものとして、其他英領、獨逸、支那、蘭領印度、加奈陀、ニュージランド、佛蘭西等であつたのである。而して對日輸出を尙ほ統計に見ると、輸出品は高麗貝、コブラ、カカオ、屑鐵、夜光貝等であつたが、千九百三十七年は三萬四百三十四濠洲磅、同三十八年は三千八百二十二磅、同三十九年は二千二百四十一磅を示し、日本からの輸入は千九百三十九年にマツチ六百二十四濠洲磅、綿布千三百六十三磅、罐詰七千六百八十四磅、其他食料品二百三十磅、飲料三百九十八磅、セメント七百十一磅を示して居る。元來ニューギニアにも千五百を算する華僑がラバウル、カビエング其他各地に散在してこの南洋の廣大なる地域に互つて貿易上常に重要な存在を持つて居たが、日支事變勃發直後彼等は結束して我國の繻絹、綿布、雜貨類等所謂日貨排斥邦品不買をなし、價格の高い米國、カナダ、濠洲等の製品を買付けたのであつたが、購買力の貧弱なる土人相手では到頭其の商品を消化すること困難となり、従つて彼等自身もその事を悟つたのであるが、實際華僑の存在は却々貿易上に有力であることは事實である。大體以上は大東亞戰の勃發以前のニューギニアの產業貿易狀況である。

道路開鑿の苦心と道路の未發達

產業開發……其の國の文化の程度を測定する最も重要な交通方面

を見ると、全土には一米の鐵道敷設はなく、従て各地に散在する椰子園への交通の如きは海上から船を以てして居る状態である。従つて鐵道網道路網の發達から見ると、ニューギニアは、全く未開地と云つて可なりである。然し道路の方を見ると、ニュアイルランド島では島を貫ぬく自動車道路が出来て居る。この島はニュブリテン島の北方に位してデューク・オブ・ヨーク島を間に挟んで海上約四十哩の所にあつて、この島の首都カビエングは最北端にあり、我が南洋群島から南下する場合の最初の門戸をなす良港たると共に軍事上貿易上の重要性を持つて居る。去れば大東亞戰でも時々紙上に現はれるところである。全土は山脈と樹木鬱蒼の密林であるが、北東岸に於ては地味肥沃の曠野が開けて居るが、椰子園として開拓されつゝあるのは首都ラバウルの交通の便を以て南西岸に多くある。ナマタイからカビエングまで二百二十軒間には實に立派なる自動車道路が出来上つてゐる。この道路の發達については彼のベンゲット道路の開鑿に似たやうな、實に言語に絶した苦難と慘酷なる話もある程である。

比律賓のベンゲット道路工事に於けるケノン少佐の場合は、これに従事した千餘の優秀なる我國の移民の勞働力が絶對的の力となつて七十哩に亘る最大難工事を成就せしめたのである。

がこの道路は嘗て獨逸の理事官であつたプロウインスキーが、土人の強制勞働に依つて開鑿したものである。彼はプロシヤの貴族出身で其の性格は極めて豪放峻嚴、土人に對しては時には如何の許すらあつたが、重疊の山を越え幽谷を渡つて蜿蜒二百二十軒に達する道路を敷設

する間の彼の苦心は實に並大抵のものではなかつたのである。茲に彼のこの道路建設當時の模様を書いたものに依つて見ると、彼の峻烈なる性格は使役土人の悉くが畏怖懼伏したものである。夫れは若し勞役中に於いて所命任務を怠つた土人を見ると、彼は石を運ぶ荷馬車の馬を蹴ずして其の重い荷車を任務を怠つた罰としてその土人が倒るゝまで何度も曳かせたのであつた。彼はこの道路建設に勞働能率の低い未開土人を相手として幾多の辛苦を嘗めて開鑿したのであつたのである。全體ニューギニアの陸上交通としての道路は産業開發的に觀察するも、亦交通上からもその發達は現在まで遅々たるものである。従つて進歩したる近代式道路と云ふが如きものは殆んど無いと云つて可なりである。只だ部落と部落を結ぶ土人の交通上に漸く荷馬車の通る位の我國に於ける所謂田舎道が建設され居る位であつて、完全なる道路政策。道路網の確立等に至つては今後に俟つより仕方ない有様である。併し乍らこの交通の利便を得ないまゝに廣大無限の處女地を持ち、肥沃豐饒の大曠野を保有して現在まで暗黒世界として忘れられた如く顧みられなかつたニューギニアこそは、大東亞共榮圈確立の必要資源の供給地として、アングロ・サクソンの羈絆を脱して東亞自身のために體て活用さるべき時機は到來することは必然たり得る所である。更に海運交通の状況については船舶の往來がこの未開地と文明地とを繋ぐ一つの橋の役割を持つて居るとせば、現在のニューギニアは未だ架せられたる橋とはなく、僅に渡し舟に依つて外界との交通を保持して居る状態である。ニューギニアに於ける大洋航路の最初は千

八百八十五年に獨逸ニューギニア會社のシンガポール、バタビア、マダニグ、ステファンズブルト、フィシユハーバー、ヘルバーツホーへ、マチニビ間を航行した北獨逸汽船に依る海上連絡であつて其の日數は二十八日間を要したと云はれて居る。現在の開港場としてはラバウル、カビエング、マダニグ、キエタ、サラマウチ、ラエの六港であるが、今次大戰の勃發直前までは外國航路としてバーンズ、フライリツプ會社のシドニー、パプア、ニューギニア線シドニー、ソロモン群島ニューギニア線、シドニーニューギニア、香港線及びイースタン、オーストラリアン、ステームシツプ會社のシドニー、ラバウル香港橫濱線其他二三外國汽船會社のニューギニア各港に寄港して居つたが、又我國の大坂商船會社の日本、オーストリア線が日本とシドニー間を往復する時に往航のみがラバウルに寄港して居つたのである。山下汽船と南洋貿易會社の船はニューギニアのラバウル、カビエング等に寄港して居つたのであつた。尙ほ定期航空はラバウルとシドニー間を千九百三十四年から開始されて、使用機はヘビランド型十人乗を使用して、料金は同間を往復六十磅であつた。又電信電話については船舶に對する無線電信所はラバウルを初めとして八都市に設置されてあるが、世界各地からの通信は全部シドニー經由に依つて接受されて居つたのである。大體以上はニューギニアの交通の概況である。

連日航空決戦のラバウルの全貌

譯つて現下の戦局の情勢を見ると、敵米國のニューブリテン島攻略

作戦は依然として執拗に繼續し、首都ラバウル上空に於いては連日間斷なき空の決戦は繰返されて居る。而して同方面の海軍航空部隊並に地上守備隊の善謀勇戦は隨所々々に活潑に行はれて居るが、これはラバウル奪取を目指す敵戦意の強靱さを端的に物語つて居ると共に、ラバウル及その方面は南太平洋の主戦場と化して居る。このラバウルと云ふ所は、ブランシエ灣の奥深く馬蹄形をしたるシンブソン灣に面せるニューギニア第一の良港にて、その周圍は山岳を以て圍まれてゐるから強風からは遮蔽されて火山爆發の際海底陥落のため、港の水深は十八米乃至三十五米となり、一萬噸級の汽船が優に横付出來得る設備がある。このラバウル市は嘗て獨逸人が熱帯都市の研究に約二十年の結果、フィンシユハーバー、シユテフアンゾルト、ヘルバーツホーへと幾多の辛酸をなめて漸く四回目こゝを首都と決定したもので、夫れだけ規模、設備、環境等は比較的克く出來て居る。戦前の人口は白人約七百、支那人約千三百、土人勞働者約二千百に、邦人は僅に二十五名と云はれ、合計約四千二百名と推定されて居たがニューギニアの政治經濟の中樞地である。町の體形はシンブソン灣の北方から海岸を距ること約百五十米の所に東西に分つて二、六料の間幅、二十米の唯一の鋪裝主要道路が貫通して、其内中央六米には整然として美しいレーンツリーの並木が植付られてある。この大通りを境として南方は官衙町、北方は商店街と云ふ風に成つて居り、商店街には千二百餘の華僑が我國の商品を商ふて居る。この主要道路の東部から北方山麓に至るまで約三町歩の植物園がある。この植物園は種々の熱帯植物が

鬱蒼と繁茂して、丁度ジャワのバイテンゾルク植物園を思はせるものがある。このラバウルに一度足を踏み入れたものは極彩色の繪の如く美しい熱帯園の都市を忘れることが出來ないとのことであるが全く綠樹に包まれて南國の情景を偲ばしむるのである。市内の道路は主要道路の外は克く我國の海岸部落にあるやうな自然的道路のやうに、道路幅も一定せず所々で曲線をなして居るが、その間に點在するバンガロ一式的家屋との調和は一層南國の情調をそゝるのである。ラバウル邦人開拓の先覺者小嶺翁を始め、四十有餘の邦人墓標もこのラバウル植物園兼公園内の巨大なる熱帯樹下に永遠に眠つて居るのである。これが刻下連日苛烈憤憤なる航空決戦を彼我に於いて繰返して居るラバウルの全貌であるが、要するにニューギニアは農業に於いても南洋諸島中屈指の適農地であり、又鑛業に於いても彼の空中輸送で有名なるモロベ州の金鑛を第一位として、石油を除く各種重要鑛物資源に豊富に恵まれ、林産は亦全土を蔽ふ鬱蒼たる叢林は際限なく續いて益々將來の開發を俟つて居る、併乍ら交通方面に至つては鐵道もなく亦道路は完備せず、これ亦各種資源の開發に併行して我國の土木技術に俟たなければならぬと思ふのである。民族はパプア族を始め種多なる種族が棲息して、其の人口はニューギニア全島の約半數を占めて居るが、未だ奇習と蠻風は全く原始の儘にて、阿弗利加奥地と共に地球上に残された唯一の喰人種の棲息地域である。併し乍ら大東亞の建設共榮園の確立がこの地に漸次及ぼせば、ニューギニアは早晚文化の恩澤に浴するに至るであらう。